

～将来にわたり持続可能な広域体制を考える～

「第1回日野郡の医療・福祉・介護を考える会」を開催

令和7年12月23日（火）、日南町、日野町、江府町の3町の町長、医療機関、鳥取県が参加し、「日野郡の医療、福祉、介護を考える会」がスタートしました。

現在、約8,500人の日野郡の人口が今後20年で半減すると予測される中、日野郡の医療・福祉・介護を将来にわたり持続可能な体制を築いていくため、広域的かつ多面的に協議を進めていくため、立ち上げに繋げたものです。中村町長が座長を務め、各医療機関の現状や課題を共有しつつ、第1回の会議では、今後の議論テーマについて協議を行い、次の3点について深めていくこととなりました。

①各医療機関の役割分担と機能分化

日南病院をはじめ、日野病院、江府診療所などそれぞれの町に所在する各医療機関の役割を明確化し、急性期・回復期・在宅医療のバランスや地域包括ケアとの連携等について具体的な議論を進めています。

②医療人材の確保と地域内人事交流のあり方

将来にわたり安定的な医療を提供していくためには、医師をはじめ看護師や介護士など医療・介護スタッフの確保は喫緊の課題であることから、鳥取大学附属病院との連携や地域内人事交流のあり方を検討していきます。

③国の政策動向と整合性

将来に向けた医療・福祉・介護体制の構築においては、新地域医療構想や診療報酬等見直しなど国の政策動向に注視し、整合性を図る必要があります。また、広域連携や共同経営も模索しつつ検討を進めています。

孝田院長（日野病院）
「将来、医師を含め医療人材の確保が困難となる。
日野郡全体で人事交流などの取組が必要。」

武地所長（江府診療所）
「日野病院・日南病院それぞれの特色を出し、機能分化を図っていくことが必要。」

裕田町長（日野町）
「地域を越えて、人材確保を含めた医療・福祉の質や、
提供サービスの維持の検討が必要。」

白石町長（江府町）
「日野郡全体の医療、介護を含めた調整が、急ぎ必要。」

サテライト機能、医師派遣
鳥取大学医学部附属病院

**20年後人口は半減することを踏まえ、
広域医療体制の抜本的見直しが必須**

役割・機能分化、医療・介護連携
日南病院
江府町
江府診療所
日野病院



第1回会議では、出席者から「病気の治療だけでなく、その後の生活も見据えた継続的支援の重要性」などの意見も出されました。また、中村町長は、「住民が安心して暮らし続けられる体制構築を、日野郡の実態に即した形で描いていきたい」と話しました。次回の会は、令和8年春の開催を予定しています。

